

# 神奈川県労働局長が建設工事パトロール(2現場)を実施いたしました



令和5年7月6日 神奈川県労働局 労働基準部 安全課・健康課



神奈川県労働局（局長 木塚 欽也）は、第96回全国安全週間（7月1日～7日）期間中である本日、労働局長が直接指揮を執って建設工事現場パトロールを実施いたしました。令和4年の神奈川県労働局管内の建設業の労働災害については、死傷者数(休業4日以上)は702人と過去最少となりました(新型コロナウイルス感染症によるものを除く。)。しかし、令和5年に入り、2月から3月にかけて土砂崩壊ほかの労働災害により5人もの労働者が死亡するという、極めて憂慮すべき状況となりました(本日時点7人)。なお、令和4年は令和元年以来の熱中症による死亡者が発生しています。

このため、県内の建設業における労働災害防止の意識高揚と醸成を図り、労働災害の発生を抑制することがパトロールの狙いです。今回は、高所からの墜落・転落災害防止対策を重点に、直射日光を遮る物がない熱中症リスクの高い場所で施工している「(株)大林組・大林道路(株)JV 東名多摩川橋リニューアル工事」及び様々な埋設物が予想される市の中心街において、地中のインフラ設備等に支障の無いよう掘削、土止めを行い、現在基礎工事中である「鹿島建設(株)横浜支店 横浜市旧市庁舎街区活用事業新築工事」の2現場で実施しました。

## 【(株)大林組・大林道路(株)JV 東名多摩川橋リニューアル工事】



作業所長(右)から現場説明を受ける局長(中央)と川崎北署長(左)。

作業所長(右)から熱中症対策車の説明を受ける局長(左)。

作業所長(中央)と現場に備えられた暑さ指数計を確認する局長(右)。

作業所長(中央)からハイウェイストライダー(移動式門型床版架設機)の説明を受ける局長(右)。

午前中に「(株)大林組・大林道路(株)JV 東名多摩川橋リニューアル工事」現場のパトロールを実施しました。この現場は交通量が非常に多い東名高速道路上にあります。ハイウェイストライダー(移動式門型床版架設機、写真)という専用機械を用い、常時6車線を確保することで通行車両への影響を軽減しています。

同現場は、東西数百mにわたって日陰がなく、照り返しなどで高温となる場所であるため、作業員が見ることができる複数の場所への暑さ指数計の配置に加え、軽ワゴン車を「熱中症対策車」(写真)として複数台配備し、車内にはスポーツドリンクなどを備えるほか、リスクの高い者に対し、時計型の深部体温測定器を装着させ、発症を未然に防ぐ対策を行っていました。また、高所からの墜落・転落対策や負傷者が出た場合の搬送方法など確認しました。

そのほか、現場ではシミュレーションにより、施工作业を効率的、かつ、作業内容を平準化するシステム(GEN-VIR：(株)大林組、トヨタ自動車(株)未来創生センターの共同開発)を採用して労働時間の削減を図るなど、働き方改革への取り組みを確認しました。

局長は講評において「高温多湿の場合、暑さ指数も高くなり、熱中症の発症が多くなります。体調不良となったときは、ただちに救援を求めるほか、意識障害があるときは、周りの方が気づいてあげて、119番通報し、速やかな搬送を心がけてください。」と工事関係者に要請いたしました。

【鹿島建設(株)横浜支店 横浜市旧市庁舎街区活用事業新築工事】



現場全景

午後には「鹿島建設(株)横浜支店 横浜市旧市庁舎街区活用事業新築工事」現場のパトロールを建設業労働災害防止協会神奈川支部(建災防)と共同で実施しました。同現場は、旧横浜市役所敷地の再開発計画の1つで、地上33階建ての高層ビルを建築するものです。

現在、同現場は、約10m掘削して基礎工事を行っています。市営地下鉄のほか電気、下水道、電話線等各種インフラが隣接する場所であるため、これらに影響のない土止め支保工の設置を行っています。



作業所長(中央)から現場説明を受ける局長(奥)と建災防の黒田支部長(手前)。



作業所長(左)から現場の埋設物の説明を受ける局長(中央)と黒田支部長(右)。



作業所長(手前)から現場での安全に関する取組事項の説明を受ける局長(奥)。

同現場は、掘削部の換気が不十分になりやすい形状であるため、熱中症対策として、大型送風機による換気、掘削底部に冷房設備を備えた「ひんやりハウス」と称した一時休憩所が設置されていることを確認しました。また、今後の作業を踏まえた高所からの墜落・転落対策、VRでの墜落危険作業への安全教育の実施を確認しました。

そのほか、デジタルサイネージ、web会議システムを用いた情報共有による労働時間の削減、資材センター設置による搬入の効率化など、働き方改革への取組みを確認しました。

局長は、現場作業員に対し、「今年の神奈川県内の建設現場においては、死亡災害が多発し、先月も墜落による死亡災害が発生してしまっところ。これらいずれの死亡災害も、基本事項が守られていなかったことから発生しております。ハーネスのフックを掛けているかなど基本動作を確実に行ってください。また、これからの時期、暑さや疲労により注意力が落ちることがよくありますので、仲間同士で確認しあうなどして、安全に作業を進めてください。」と呼びかけました。

また、講評においては、「熱中症対策について、掘削部がピット状になっている現場の特性を考慮し、送風装置を設置するなど換気に重点を置かれていることを確認させていただきました。今年も厳しい暑さになるとの予報もありますので、引き続き、作業される方の健康への配慮をお願いいたします。DX(デジタルトランスフォーメーション：各種情報等のデジタル化推進による業務革新)を利用した効率的な作業の推進や建設資材の荷主としての配慮を進めていただき、より安全で健康に働ける現場づくりをお願いいたします。」と工事関係者に要請いたしました。

加えて、建災防の黒田支部長からは、「建災防神奈川支部で取り組む安全に関する『3本の矢運動』が、しっかり現場で実現していることに敬意を表します。横浜の中心地での工事であり、県内の現場の見本となるよう無事故、無災害での完工をお願いします。」と安全施工の要請がありました。